

離縁について教える

マルコによる福音 10:2-12

(そのとき、) ファリサイ派の人々が近寄って、「夫が妻を離縁することは、律法に適っているでしょうか」と尋ねた。イエスを試そうとしたのである。イエスは、「モーセはあなたたちに何と命じたか」と問い返された。彼らは、「モーセは、離縁状を書いて離縁することを許しました」と言った。イエスは言われた。「あなたたちの心が頑固なので、このような掟をモーセは書いたのだ。しかし、天地創造の初めから、神は人を男と女とお造りになった。それゆえ、人は父母を離れてその妻と結ばれ、二人は一体となる。だから二人はもはや別々ではなく、一体である。従って、神が結び合わせてくださったものを、人は離してはならない。」家に戻ってから、弟子たちがまたこのことについて尋ねた。イエスは言われた。「妻を離縁して他の女を妻にする者は、妻に対して姦通の罪を犯すことになる。夫を離縁して他の男を夫にする者も、姦通の罪を犯すことになる。」

説教

きょうの福音をすなおに聞けばこうなります。

ファリサイ派：夫が妻を離縁することは律法にかなっているか？（モーセは離婚はできるといっている）（10:2）

イエス：神が結び合わせてくださったのだから、離縁できない。（10:6-9）
ユダヤ教では離婚はOKだけど、キリスト教ではNGだ、こういう解釈になるでしょう。

実際キリスト教では長い間離婚はできないという教えが続いていました。しかし、いまのキリスト教の主流は離婚はOKということに変わっています。ところが、実質的には離婚はダメという考えがキリスト教、キリストの教会にははびこっています。本音と建前です…。タテマエとしては離婚は認め

るのだが、本音をいえば離婚なんてする奴（男も女も）はダメなやからで墮落しているという（悪魔のような）考え方がはびこっているのではないのでしょうか。きょうのマルコの福音を原理的にしか読むことのできない人たち、そういうグループはいますし、あります。悪口をいえば、彼らは福音を読むことしかできず、福音に聴くことのできない人たちです。

文字は殺しますが、霊は生かします。（ニコリ3:6b）

先週も引用しましたが、このパウロのことばがわからない人です。

東洋のむかしの言葉、論語にこうあります。

君（きみ）君たり、臣（しん）臣たり、父 父たり、子 子たり（顔淵第十二十一）

このことばも解釈が分かれていて、

- ①君主は君主らしく、家臣は家臣らしく、父親は父親らしく、子どもは子どもらしく、それぞれ努め励みなさい、という意味合いで解釈する派閥と、
- ②君主が君主らしくなくても、家臣は家臣として仕えなきゃいけない。父親が父親らしくなくても、子は子として尽くさなきゃいけないと解釈する派閥があります。

孔子が語ったこのことばには引用元があってそれにはこうあります。

君（きみ）君たらずといえども臣（しん）臣たらずるべからず。

（「古文孝経」序から）

主君に徳がなく主君としての道を尽くさなくても、臣下は臣下としての道を守って忠節を尽くさなければならない、となるそうです。このような解釈を聞くと、なんとも封建的だなあ、古いなあと感じます。また、志村けんのバカ殿さまを連想してしまいます。殿さまがアホでも家来は一生懸命尽くす、これをお笑いに行っているのが志村けんの芸ということでしょうか。

強引なのは承知のうえなので、イエスのみことばを「君(きみ)君足らずとも…」風に置き換えるところになります。

夫が夫らしくなくても、妻は妻として尽くしなさい(離婚はダメです)

あれ、ずいぶん封建的なことをいっています。これは福音なのでしょう。イエスのことばを「新しい掟」と解釈して離婚はダメだとしてきた教会は長い年月を経て、離婚はOKという解釈に変更しました。でもまだ本音と建前がはびこっています。「掟」という考え方がかたくなるしいからだとわたしは考えています。厳密にみことばを現実に適用させようとするとうとう硬直してしまいます。それでは凝り固まった教えを広める教会になってしま

う。コリにはやっぱりサロンパスでしょう。ジーンときいて凝り痛みがとれ、そのうちに回復します。

福音はサロンパスじゃないのですが、福音を聞くということは痛みを塩をすりこむことではなく、痛みを和らげていただくこと、癒していただくことです。

最期に福音からイエスのことばを引用してきょうの結びとします。みなさんのところにジーンときいて痛みやコリがとれますように。

イエスは言われた。「あなたたちの心が頑固なので、このような掟をモーセは書いたのだ。しかし、天地創造の初めから、神は人を男と女とお造りになった。それゆえ、人は父母を離れてその妻と結ばれ、二人は一体となる。だから二人はもはや別々ではなく、一体である。従って、神が結び合わせてくださったものを、人は離してはならない。」10:5-9
